

2020年度 事業計画

〈法人目的〉 キリスト教の精神に基づき、あらゆる人々が自分らしく生きることのできる
平和な社会の実現をめざす。

I 保育事業（第二種社会福祉事業）

<保育理念>

キリスト教の精神に基づいた保育の中で、乳幼児の育成に励み、一人ひとりの子どもが未来社会の良き担い手となるようにはぐくみ育てる。

1. 大宮保育園

(1) 認可定員・利用定員・職員数

- ・認可定員 180名
- ・利用定員 150名
- ・一時預かり事業定員 3名（満1歳～就学前児童）
- ・職員数 39名（園長1名、保育士26名／常勤20名・非常勤6名、調理員5名／常勤3名・非常勤2名、看護師／常勤1名、事務員2名／常勤1名・非常勤1名、保育補助／非常勤3名、アルバイト1名）

(2) 保育目標

どの子ども一人ひとり神さまから託されたかけがえのない子どもたち。

子どものありのままの姿を受け入れ、以下のような姿を目標に、本園の保育課程にそって保育する。

- ・どんな小さなことにも感謝することのできる子ども
- ・すべての命を大切にすることのできる子ども
- ・あそびも学びも根気よく集中することのできる子ども
- ・表現豊かな子ども
- ・仲間を大切に、地域のなかでともに育ちあう子ども

(3) 年間保育目標

「心が満たされる」とのキリスト教保育連盟の年主題を園の年間目標として掲げ、大切にしたいことを職員間で共有する。

(4) 保育内容

- ① 乳児保育…育児担当制の実践
- ② 幼児保育…異年齢保育（たてわり）の生活を基盤に、発達に応じた年齢別クラス（よこわり）の活動を取り入れる
- ③ 障がい児のチーム保育、子どもの人権に根ざした保育

(5) その他の取り組み

- ① 地域と協働した子育て支援活動
- ② 地域の小学校との交流
- ③ 地域の人たちとのふれあい、高齢者の方々との交流
- ④ 危機管理体制を充実させ、積極的に苦情処理、防犯、防災訓練に取り組む
- ⑤ 行政・地域と協働しつつ児童虐待、DV予防に取り組む
- ⑥ 職員の資質の向上をめざした研修や、職員会議を充実させる
- ⑦ サービスの質の向上に向けて、ヒヤリハットや事故報告書などを検討し、再発防止に取り組む
- ⑧ 実習生、インターシップ、ボランティアを積極的に受け入れる

2. こひつじほ一む (小規模保育事業)

(1) 認可定員・利用定員・職員

- ・認可定員 12名
- ・利用定員 12名 (0歳～2歳児各4名)
- ・職員数 7名 (園長1名、保育士6名/常勤2名・非常勤4名)

(2) 保育目標

子どもをありのままに受け入れ、一人ひとりの心に寄り添い丁寧に関わる中で、以下のような姿を目標に保育する。

- ・基本的生活習慣を身に付ける
- ・命や物、どんなものも大切に出来る
- ・自分の思いを素直に表現できる
- ・色々なものに興味を持ち意欲的に体験しようとする

(3) 年間保育目標 「心が満たされる」

(4) 保育内容

新制度のもとでの小規模保育事業所の役割を確認しつつ日々の保育に務める。

- ・小さい集団の中で家庭的な保育を行う。
- ・親元から離れて初めて出会う大人に十分に受け入れられ、信頼できる大人との出会いのなかで愛され、のびのびと過ごす。(育児担当制の実践)
- ・日々の安定した生活の流れの中で見通しを持ち、安心して過ごす。
- ・スキンシップ、あやし、受容と共感などで満たされた関わりの中で過ごす。(心の育ち)
- ・四季折々の自然に触れて遊ぶ中で五感を育む。
- ・保護者、地域の方、職員が繋がりあい、子どもの成長を見守る中で、一人ひとりの自己肯定感を育む。

(5) その他の取り組み

① 保護者支援

- ・おはなし会 月1回、保護者と子ども達が一緒に楽しく過ごせる交流の場を提供する。
- ・こひつじカフェ 保護者同士がゆっくりとお茶を飲みながら交流できる場の提供に取り組む。
- ・保育参加 子ども達の生活の様子・子ども同士や保育士との関わりを知り、子ども達の成長発達にも気づききっかけ作りを目的として、一日の生活を共に過ごす。
- ・パパ会 父親の保育協力が多い中、父親同士の交流の場を提供する。

② 地域住民との交わりを積極的に取り組む。

③ 危機管理体制の充実をめざし、苦情処理、防犯、防災訓練に力を入れる。

④ 行政・地域と協働しつつ児童虐待・DV予防に取り組む。

⑤ 職員の資質の向上をめざした研修や職員会議を充実させる。

⑥ ヒヤリハットや事故報告書などの検討に工夫を行い、再発防止やサービスの質の向上につなげる。

II シャロン千里

シャロン千里は、2020年2月に20周年を迎えた。20年の間に地域に愛され、必要とされる施設となってきた。今後も皆様が健康寿命の延伸をめざすために、いつまでも役割を持って自立した生活を送るための担い手として、職員全員がそれぞれの専門性を活かし、高齢者・子育てに悩む世代・子どもたちをサポートしていきたいと考える。

- 《シャロン千里基本方針》
- ・ 「いのちの尊厳」が守られるケアに力を注ぐ
 - ・ サービスの質の向上に努める
 - ・ 社会貢献事業に取り組む
 - ・ 経営の安定性をめざす

1. ケアハウス（軽費老人ホーム）

新たな入居者も共同生活を円滑に送れるよう、一人ひとりの声に耳を傾け、皆様が心身ともにいきいきとした生活を送れる環境作りを目指す。クラブ活動や体操、行事など入居者が居室から出て活動する仕組みを展開し、予防の視点を重視した施設作りを目指す。

- ① 定員 50名
- ② 自立支援 ・入居者の自主性を尊重し、自立支援、自己決定が出来る環境作りに努める。
- ③ 生活の充実 ・入居者が個々に発信する情報を迅速にとらえ、多様化するニーズに合わせた支援に取り組むことで、一人ひとりの生活の充実を支援する。
- ④ 職員の質の向上 ・入居者一人ひとりが尊重され自分らしい快適な生活を送れるよう、人権擁護に関する職員の意識を高め、定期的な内部研修や外部研修を活用し、職員の質の向上に努める。

2. 介護保険事業

(1) ティサービスセンター（通所介護・介護予防通所介護）

幅広く利用者を受入れることで、安定した事業運営を目指す。利用者がゆったりと心地よく過ごしていただけるようにサービスの質の向上に努める。

- ◆目標 ・一日平均利用者数 20名（定員 25名）

(2) ヘルパーステーション（訪問介護・介護予防訪問介護）

利用者一人当たりの介護報酬が減額される中、いかに多くの利用者を獲得するかが鍵になっている。担当ケースが増加する分、サービス担当責任者の業務を見直し効率化できる部分を具体的に改善していく。ヘルパーの研修内容を充実することで魅力ある職場になるよう努める。

(3) ケアプランセンター

特定事業所として、地域包括支援センターや地域医療施設と連携し、支援困難ケースへの積極的な対応を行う。近隣地域は核家族化が進み、独居認知症高齢者・老々介護等の問題を抱えており、その方々が住み慣れた地域で安心して生活を継続できるようにケアマネジメントを行う。また、ターミナル期における支援を可能な限り受け入れ、人生の最期まで自宅で尊厳ある生活を送ることが出来る様に支援を行なう。

- ① サービスの質の向上への取り組み
 - ・介護支援専門員の担当件数を1人当たり35件とし、質の高いサービス提供に努める。
 - ・職員研修の充実を図る（認知症ケア、ターミナルケアを含む在宅医療 精神疾患、マネジメント技術等に関する研修）
- ② 主任介護支援専門員としての取り組み
 - ・地域包括支援センターとの連携・地域のネットワーク作り
 - ・介護支援専門員実務者研修における見学実習の受け入れ
 - ・地域における他法人事業所共同での事例検討会の開催

- (4) 介護サポート連絡会
 - ① 職員研修の成果を各事業現場に活かせるように取り組む。
 - ② 介護保険情報を共有し、今後の事業運営に活かす。
 - ③ 介護職員処遇改善加算により、介護職員の処遇改善の充実を図る。

3. 受託事業（吹田市）

(1) 留守家庭児童育成事業

子どもの主体性を大切に、安全・安心でよりよい子ども達の育ちを保証していくことを目指す。研修に積極的に参加し、通常保育以外に隣接する他の育成室や地域のボランティアの方々とも交流を図りながら保育の充実を努める。

(2) 地域包括支援センター

昨年度に続き委託包括の役割の重要度がますます増し、各々の地域の特性に適した形での対応が求められると予測される。古江台青山台地域の特性として、個々の地区での活動はあるものの、差が大きく横のつながりが薄いことが課題である。連携がスムーズに行く地域作りを目指して、包括も積極的に地域に出て行き周知に努める。

(3) シルバーハウジング

日頃からのコミュニケーションを大切にし、入居者の方々が介護予防に取り組めるよう相談活動を行う。緊急時の対応についてトレーニングを実施し職員の質の向上を目指す。

4. こども館（児童館）

こどもの健全育成と子育て支援を目的として、地域の特色を生かした活動を行う。

- ① 親子でいきいきリレーションシップ
- ② 無料開放のオープンデイ（毎週水曜日午後）
- ③ 大宮保育園との交流活動「つみきとお話の家」
- ④ 夏休み・冬休みお楽しみプログラム

5. 介護職員初任者研修事業（旧ホームヘルパー養成講座）

受講期間を3ヶ月間に戻し、週1～2回の通学与自宅学習のスケジュールとする。広報については、従来の口コミと案内書配布に加えホームページでの広報を強化し、パソコンやスマホでも当研修が検索できる体制を整えた。また修了後、当施設に勤務する方には受講料の一部を補助する制度や大阪府の補助事業を活用して受講生の便宜を図り、受講意欲の増進と職員確保につなげる。

6・全 体

(1) 食 事

安全で質の良い食材を確保し、入居者にバランスの良い食生活を送っていただけるよう努める。非常時の備蓄食品の入れ替えを行う。

(2) 事故対応委員会

事故の事例報告・検討を通じて事故防止、再発防止を目指す。

- ① 事故発生時の対応について研修を行い、対応・報告等の迅速化を図る。
- ② 各部署での事故検討を深め、再発防止へとつなげる。

(3) サービス品質向上委員会

苦情対応報告やアンケート結果などを、利用者及び家族の声に重点をおいて検討し、サービス内容の見直しとサービスの質の向上を図る。

(4) 社会貢献事業

経済的支援のみに留まらず、その人らしい自立にむけた支援が行えるよう大阪府社協の社会貢献支援員や吹田市内の他の施設と連携を密に対応していく。